



温暖化の脅威にさらされる鳥類



Climate change could reduce the arctic breeding range of the Siberian crane by 70%. This long-distance migratory bird is already critically endangered

- 地球の気温上昇が2℃を越えると、ヨーロッパでは38%、オーストラリアでは72%の鳥類が絶滅する。
- 渡り鳥の繁殖地、中継地、越冬地の環境が変わり、絶滅の危機に瀕する。

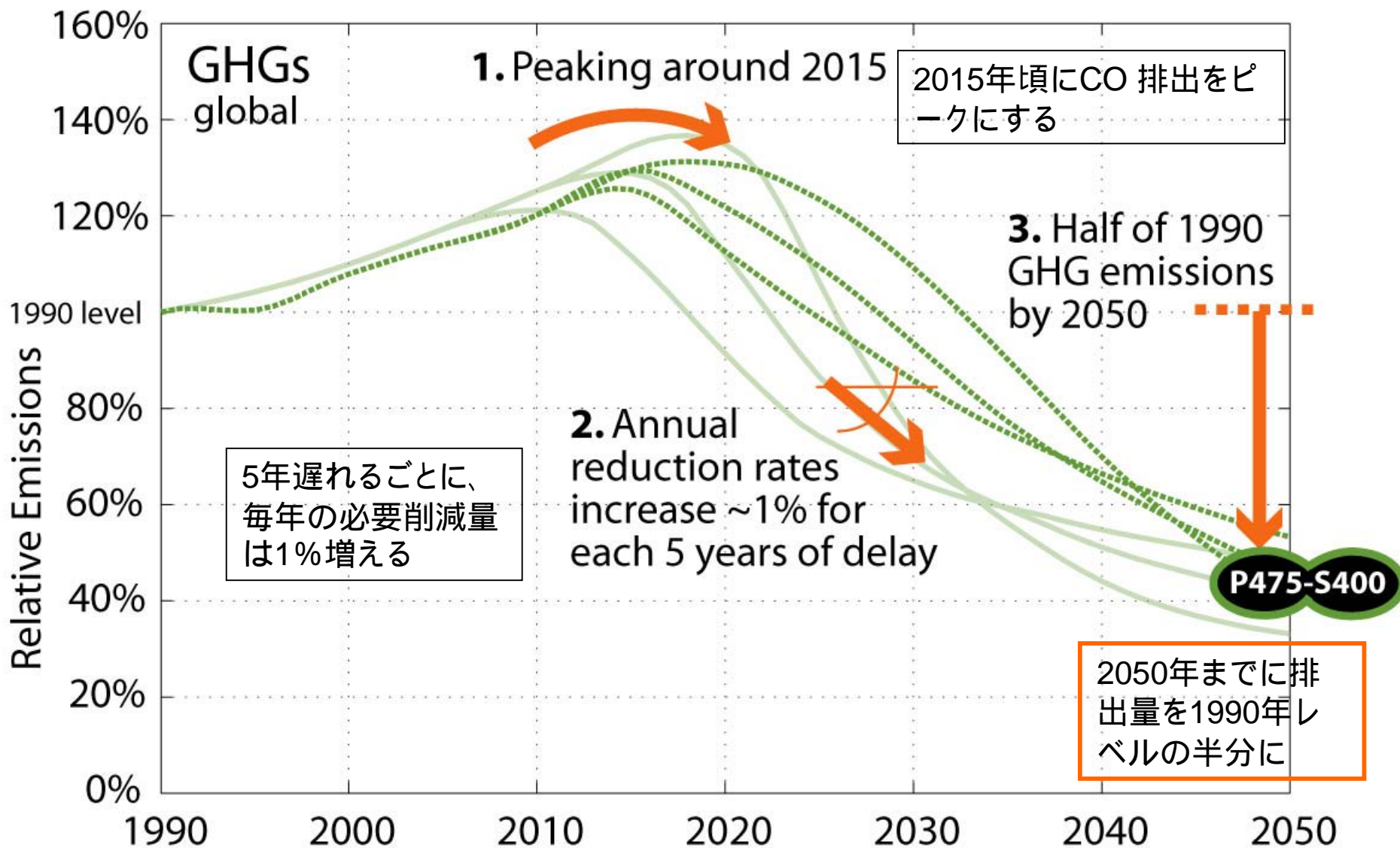
“Bird Species and Climate Change: The Global Status Report” (Climate Risk Pty. Ltd, 2006年11月)





行動は一刻も早く取らなければならない

<http://www.stabilisation2005.com/day2/Meinshausen.pdf>





「環境立国」として 日本に期待されていること

- 気温上昇幅を、「2」に抑えることへの支持。
- 長期目標として、世界の排出量を、**2050年までに1990年レベルから50%削減**することを掲げる。
- それが先進国である日本にとっては、何%くらいを意味するのかを示唆する。
- その長期目標に向かい、バックカastingで、2030年くらいの中期目標、および2020年くらいの短期目標を掲げる。
- 「**京都議定書**」の**目標達成を確実にする政策を導入することにより**、2013年以降の将来枠組み交渉でリーダーシップを発揮できるようにする。
- それには、日本の得意とする、エネルギーの効率利用に関し、既存の技術の普及をめざすため、「**国内省エネ目標**」を**数値化し、義務化する**。
- また近隣の中国、インドなどへこうした技術を移転し、「**クリーンな発展**」を促し、**グローバルな温室効果ガス排出削減へ向けたリーダーシップをとる**。





世界各国の中長期目標

- **EU**: 2020年までに1990年レベルから20%削減
- **イギリス**: 2050年までに1990年レベルから60%削減
- **アメリカ**:
 - 今年に入って、7つも新しく、義務的な温室効果ガス排出抑制法案が提出されている。ほとんどはキャップ&トレード型の排出量取引提案、あるいは他の政策措置とのポリシーミクス
 - **2050年までに最大で80%削減を掲げ**、どの法案も、そこに至るまでの目標値を何段階にも分けて、中長期目標として提示。
 - そのうち3法案は「2050年」の重要性に言及している。
 - **それを、産業界が支持している。**

